

松前町町民すべてが「花守」の子孫

松前花の会（松前町）

最北の名城・松前城がそびえる松前公園には、1万本の桜が咲き乱れる。ここの「さくらまつり」は、戦後すぐの1947年から毎年開催され、2010年で63回目。「早咲き」「中咲き」「遅咲き」と250種類もの桜が植えられており、1ヵ月以上にわたって桜を楽しむことができる。長期間にわたってこれだけの桜を愛でることができる場所は全国的にも珍しく、日本有数のさくらの名所として知られている。



桜の名所・松前公園にそびえる松前城

毎年4月下旬から5月中旬までさくら祭りが開催され、出店やイベントが行われるが、祭りの最終日である2010年5月23日、町民自身が楽しむ花見会「大観桜会」が行われ

た。芝生の上で車座になった人たちの前には、ジンギスカンや日本酒が並べられ、町民が作詞作曲した「松前桜音頭」の歌声に合わせて、数十人が踊り続けている。桜の下を子供たちが走り回り、花びらが舞っている。

松前の人たちはこの花見を楽しみながら、その年の「さくらまつり」を顧みて、来年の「さくらまつり」への決意を固める――。

■ 「花守」が育んだ町

2010年の「さくらまつり」は、桜の開花時期が遅れたため、例年よりも1週間期間を延ばした。しかし、「思ったほどの効果は出なかった」と、松前観光協会の川内隆靖さんが言う。延期した期間には観光客が集まらず、一番集中した時期は例年通りの5月初旬。まだほとんど桜は咲いていなかった。

「休日の都合や宿の予約などもあり、皆さん予定を早くから決められるので、なかなか桜の都合には合わせられないのでしょうか」と川内さんは振り返っていた。

松前に桜が植えられたのは松前藩の時代、本州から渡ってきた人々が遠く離れた江戸や京都を懐かしんで桜を植えた。松前の商人

や、参勤交代の藩士たち、京から輿入れした奥方たちが、各地の桜を運びこの地に植えたのである。

江戸時代の繁栄が終わると、松前は時代の流れに取り残され色褪せたようになってしまった。そんな町を盛り上げようと桜のつぎ木や移植を行ったのが、「花守」と呼ばれた人だった。大正時代からつぎ木で桜の増殖に力を注いだ鎌倉兼助氏は、函館公園の盛大な花見を見て、松前でもっと桜を増やし、「花見ができるようになれば、町の人々の心も和むのではないかと、光善寺の血脈桜から枝をもらって接ぎ木の増殖を始めた。

また、小学校教諭として赴任してきた浅利政俊氏の功績も大きい。浅利氏は、「日本桜の会」の桜研究員。全国各地から桜を収集、品種改良によって松前独自の桜を生み出し現在の礎を築いた。



町民が楽しむ花見会「大観桜会」(2010年5月23日)

そうした先人の郷愁や努力を継承し発展させようと、町民すべてが「花守」として関わっているのが、この町の大きな特徴である。子供会の種まき、老人クラブの桜の手入れ、

婦人会有志の桜博物館でのボランティアなど、町では数々の市民団体が桜に関わっている。学校でも積極的に祭りを支援しており、松前高校ではボランティアガイドやアンケート用紙の回収作業などを行っている。小学生は手書きの「観光パンフレット」を授業で作成し、それが旅館や観光施設などに置かれている。

■ 町民すべてが「花守」の子孫

こうした市民団体のなか、「松前花の会」(岡本清治代表)は、桜の維持・管理などを行っている中心的なグループである。戦後中断されていた桜の植栽を再開して90歳までその活動を続けた鎌倉氏の意思を継いで、1976年に結成された。初代の会長は石山善太郎さんであった。現在の主なメンバーは30人ほど。

同会の北川聖治さんによれば、主な活動は3月末のつぎ木から始まり、4月・5月には草刈り、6月には病気の対応、そのほか観光客に対する案内、町民への講習会など年間を通して様々な活動を行っているという。

「つぎ木は、毎年200本ほどやっていますね。つぎ木など大きな仕事の場合はメンバーが総出で一斉にやりますが、草刈りなどは、大まかな分担があるだけで各自がそれぞれにやっています」と、北川さんは活動状況について説明する。

また、地元小学校や警察などでもセミナーを実施している。警察官も観光客に桜について尋ねられるため、その知識が必要だという

ことで、講習会が行われたという。そして、大変なのは樹木の病気への対応だという。

「一番問題になっているテグス病は、菌が発症要因なのです。感染を防ぐために伐採した枝をすぐに焼かなければなりません。慎重に作業を進めます」と拳を握りしめた。

その他、同会員の竹田勝治さんは、桜木にかけの名札を墨で書いている。古くなったものや、読めなくなったものを取り替えたりするため、年間 600~700 枚もの名札を書く。さらには、土産物としても販売、その売り上げを活動資金に充てているという。

同会では、「松前の花守」との自負を持って今後も活動を展開したいとしている。



さくらまつりの後片付けをする北川さん（右）

■ 「ウソ」による大打撃

こうした市民の努力にもかかわらず、2009 年の初旬には、スズメ目アトリ科の鳥「ウソ」に桜の芽を食べられ、大打撃を受けた。ウソは普段山間部に生息するが、冬場にはエサを求めて丘陵地や低地に移動する。桜やモモ、ナナカマドなどの花芽が食べられ、

道南一帯では毎年被害を被るが、2009 年は特に酷かった。松前では早咲きの桜の約半分の花芽が食べられてしまった。

こうした被害を繰り返すまいと、2010 年には町と観光協会などでつくるウソ対策会議が「防衛作戦」を提唱。「松前花の会」や松前公園をウォーキングしている人々、中学生や高校生など合計 300 人もの町民が一丸となって、ウソの被害から桜を守った。樹木にネットをかけたり、光る物を枝に下げたり、ウソが嫌いな黄色いジャンパーを着て定期的に巡回したりと数カ月にわたって樹木を守る活動を行ったことで、桜はほとんど被害を受けなかった。

「さくらまつり」の最終日、「松前桜音頭」が流れる大観桜会で、北川さんが頬を桜色に染めながら語ってくれた。

「ここで花見をして飲むために、1 年間花の世話をしているようなものですよ」

気負わないこの自然体こそが、本当の「花守」のあり方なのかもしれない。

■ 連絡先

〒049-1507 松前郡松前町字西館 68 松前藩屋敷内
松前花の会

TEL : 0139-42-2726 / FAX : 0139-42-4333

URL : <http://www.asobube.com/>

<http://mobile.asobube.com/> (携帯)